



第 5 号
平成 26年9月4日
広島市立広島特別支援学校
保健室

夏休みは楽しく過ごすことができましたか？体調を崩すことはなかったでしょうか？

いよいよ2学期が始まりました。学校や授業のある生活に
戻るのが時間がかかる人もいるかもしれません。『早寝・
早起き・栄養補給』を心掛け、体調を整えましょう。



1 9月の保健行事予定

日時	小学部	中学部	高等部
9月 2日 (火)		身体計測(1、3年)	
9月 3日 (水)	眼科健康相談(検診を受けていない人と相談希望者)	身体計測(2年) 眼科健康相談(検診を受けていない人と相談希望者)	眼科健康相談(検診を受けていない人と相談希望者)
9月 4日 (木)			身体計測(2年)
9月 5日 (金)			身体計測(3年) 修学旅行前内科健康相談(2年)
9月8日(金)			身体計測(1年)
9月 9日 (土)	身体計測(学年未定)		
9月10日(金)	身体計測(学年未定)		
9月11日(木)	神経科健康相談(相談希望者)	神経科健康相談(相談希望者)	神経科健康相談(相談希望者)
9月18日(木)			宿泊前内科健康相談(高1)
9月30日(金)	耳鼻科健康相談(検診を受けていない人と相談希望者)	耳鼻科健康相談(検診を受けていない人と相談希望者)	耳鼻科健康相談(検診を受けていない人と相談希望者)

2 熱中症について

9月になっても、日中の気温は真夏並みです。お天気によって気温の変化が激しいので、まだまだ熱中症への注意が必要です。

〇こんなときは、要注意！！

- ・下痢をしている(脱水状態になりやすい)
- ・睡眠不足(疲れがとれていない)
- ・熱っぽい(体温調節がうまくできない)
- ・朝ごはんを食べていない(エネルギー不足)

調子の悪いときは、早めに休養がとれるように配慮してあげてください。



3 学校保健委員会について

7月24日に、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の先生方やPTA役員の方々におこしいただき、学校保健委員会を開催しました。学校環境や児童生徒の皆さんの健康に関すること等について話し合いましたので、報告させていただきます。



< 内科検診について >
結核について、家族検診・臨時検診で見つかることが多い。今年、暑いので子どもの様子をよく見てほしい。
(牛尾医師)

< 発達障害の診断基準について >
昨年、発達障害の診断基準が変わった。数年は、色々な診断名が混在すると考えられるため、知っておいてほしい。
(松田医師)

< 整形外科検診について >
広島に、小児整形外科の専門医が少なく、県外の病院を受診していると聞く。小児整形外科の専門医が必要であると思う。(今後の課題)
(福原医師)

< 耳鼻科検診について >
耳垢栓塞が64名と多かった。耳垢栓塞は、鼓膜の状況を観察することができないため、滲出性中耳炎など、耳の奥にある病気を発見できない。病院を受診してもらいたい。
(太田医師)

< 歯科検診結果について >
検診後の未受診者が少なく、保護者の方や先生のおかげである。本校以外から入学した児童生徒が増えているため、歯科指導が追いつかない状況があり、引き続き連携をとっていく必要がある。
(上田歯科医師)

< 安全点検や環境衛生検査について >
施設設備がとても良い、7月のプールの水質検査では、基準値よりのはるかに良い値が出た。(永野薬剤師)

< 視力検査について >
本校は、視力検査ができていないという実態がある。そのため、日ごろから様子を見て、見えているかどうか判断するしかない。見えているようでも、片方だけのもすごく視力が弱い、左右差がある等の課題がある場合もある。以上のことから、検査できなかった場合には、一度、ぜひ眼科を受診してほしい。
(佐久間医師)



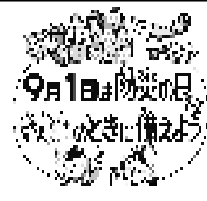
子どもの状況により医療機関を受診しにくいことがあるというお話がありました。

学校医の先生方からは、受診する前に電話等で相談していただけたら配慮ができることもあるという御返事がありました。



4 事故・けがの防止について

9月1日は『防災の日』でした。災害への備えは、命を守る備えでもあります。また、普段の行動や身の回りを見直し、安全について考えておくことも万一の備えとなります。この機会に是非安全について考えてみてください。



「もしも」にそなえて
みんなで確認!

連絡をとりあう【手段】は?

「メール」 「電話」 「アプリ」

はなれたときの【集合場所】は?

「公園」 「学校」 「公民館」

家のまわりの【危険な場所】は?

「がけ」 「川」 「海」

避難するときの【持ちもの】は?

非常持ち出し袋の中身 (例)

非常食、水、携帯ラジオ、懐中電灯、電池、ろうそく、マッチ・ライター、現金、救急医療品、手袋、衣類、紙血、紙コップ、はし、石けん、タオル、保険証のコピー、ティッシュ、毛布

○地震が起きたときの心得

- ☆身の安全をはかる (家具などの倒れそうなものから離れ、頭を保護する)
- ☆落ち着いて行動する (周囲をよく確かめてから外に出る)
- ☆正しい情報を得る (ラジオやテレビで正しい情報を得る、外出先では放送や係員の指示に従う)

5 応急手当について

9月9日は『救急の日』です。災害への備えとして救急用品を用意したり、応急手当について覚えたりしておきましょう。



ケガをしたとき自分でできる3つのこと

洗う

●傷口の汚れを落とす

●目に入った薬品など

冷やす

●だぼく、ねんご、つき指

●やけど

押さえる

●出血がひどいときは、清潔なハンカチなどで

●鼻血はうつむき気味にして、鼻の上の部分

4 生きる力を育む歯・口の健康づくり推進事業の講演会でのアンケートより

- 学校歯科医の上田先生より、アンケートの回答をいただきました。
- Q ダウン症で口を開けて舌を出していることが多いと感じます。口を閉じるようになるためのトレーニング方法があれば、教えてください。
- A 岡山大学の小児歯科の岡崎好秀先生は、ダウン症の方の低位舌に対して舌挙上装置を研究しています。興味のある方はかかりつけの歯科医師に相談してみてください。
- Q 仕上げ磨きで奥歯が磨けません。今のところむし歯はないのですが、歯科を受診する頻度はどのくらいがよいでしょうか。
- A 実際にお口の中を診ている歯科医師に相談するのが一番良いと思います。
- Q 子どもがおとなしくできない場合でも、対応していただける歯科はありますか。
- A 障害者歯科や小児歯科を掲げる歯科の中には、専門医がいる場合もあります。
- Q 障害児の歯・口の外傷発生時、大学病院でなくても同等の処置はできますか。
- A 残念ながら、個人病院でどこでも同等の処置というのは難しいかもしれませんが、病院を受診する前に、確認した方が良いでしょう。

たくさんの質問ありがとうございました。今回、紹介できなかった質問については、次回の保健だよりにて紹介させていただきます。

